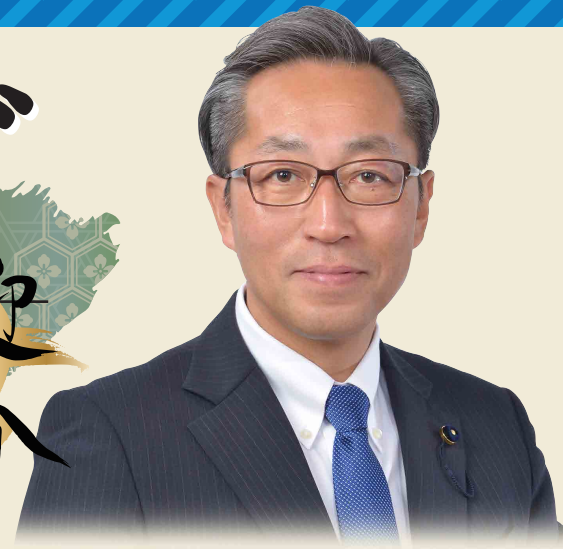


まっすぐ

迎春



あけまして おめでとうございます

田中ともなりです。

2020年はオリンピックとパラリンピックで感動するシーンを数多く観られるものと、ワクワクしていましたが、新型コロナウイルス一色の一年となりました。

この感染症に関連してお亡くなりになられた方には、あらためて哀悼の意を表するとともに、感染された皆様には、心からお見舞い申し上げます。

事態が収束するにはまだまだ時間がかかりそうですが、引き続き議会の場で、県民の皆さんの生命と健康を守るため力を尽くしていきたいと考えています。



東紀州へ調査に行ってきました。



11月上旬、熊野市、御浜町及び紀宝町を訪れ、三重の「みかん」に関することや地域の観光振興の取り組みの現状と課題などについて農家さんや農協、道の駅などで関係者の方々から聴き取りを中心に調査をしてきました。

柑橘農家では畑での作業を省力化できるようにするとともに、法人化(株式会社)し移住の若者を雇用しているところや、

SNSなどによる全国への販路展開の取り組みを見せてもらいました。

また、御浜町の国の補助を受けたJAの大規模な選果場では、光センサー、外観カメラなど最新鋭の設備で測定し、サイズや品質(糖度・酸度)ごとに自動で振り分けられた後に等級ごとに箱詰めされるシステムを見学しました。近年ではタイへの温州みかんの輸出もされていますが、農薬などの基準の変更も頻繁で苦労をしておられる様子を聴き取りました。

また、観光振興では、道の駅「熊野・花の窟」で運営しているNPO法人有馬の村理事長から、地元有志による取り組みの経過や、地域特産品である古代米「いざなみ米」(赤米)を活かした、うどんやお土産などの商品開発について聴き取りさせていただきました。

今回の調査では、県内にある一次産品や風景なども含めた地域資源を、地域の人々が主体的に関わりながら付加価値を高め、SNSなどの様々な手法も用いて県内外に広めていくことの重要性を改めて強く感じました。



熊野古道清掃ボランティアに参加しました。

先日、熊野古道サポーターズクラブの活動で「二木島峠清掃ウォーク」に参加してきました。新型コロナの影響を考慮し、密を避けるため人数を絞って10名ほどの参加者でマスク着用での開催でした。

地元の保全団体の方から「馬力のある人はこれをお願いします。」ということで、5キロくらいはありそうなバールを渡され、いざ出発。歩くのに邪魔な道にある大きな石を、それで起こして脇に移動させる役目で、思ったより重労働…。内心(当初、作業内容はゴミ拾い、落ち葉、小石の除去作業と聞いていたのに…。最後まで体力もつかなあと)心配になりましたが、どうにか峠まで任務を遂行することができました。

二木島は、古式捕鯨が盛んだった土地で集落のはずれに江戸時代に建てられた鯨の供養塔や、隠れキリシタンが参りするキリシタン灯籠もありで、初めての熊野古道体験、天気も最高で『いい汗!』しっかりかいてきました。



素晴らしい三重県の誇る世界遺産

熊野古道サポーターズクラブ

バール



議会よりご報告



新型コロナウイルス感染拡大予防のため
答弁台にも大きなアクリル板が設置されています。

「三重県感染症対策条例」について

新型コロナウイルス感染症を教訓として、本県の感染症の発生の予防とそのまん延の防止だけでなく、安心して暮らしていただける社会の実現をめざし、感染症に関する差別や誹謗中傷を禁止する規定も盛り込んだ内容となっています。

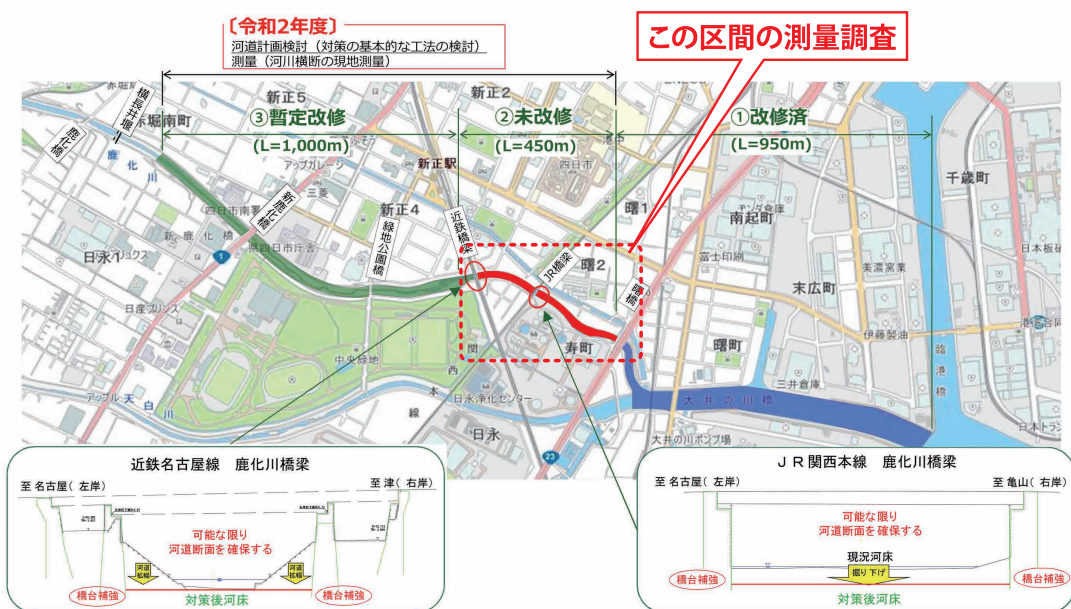
10月の委員会に示された中間案では、情報の公表にあたっては、「個人情報の保護に留意しなければならない」となりましたが、誹謗中傷などを防止する観点から、「社会的な影響も考慮した上で情報を取り扱うべきである」と意見するとともに「必要な人材の養成及び資質の向上を図るよう努める」としていたことに対して、保健所における人員不足の現状から、保健師や公衆衛生医師など人材確保も規定するべきであると意見しました。またパブリックコメントにおいて県民の皆さんから寄せられたご意見も反映された最終案が上程をされ可決されました。

条例が制定されたからと言って感染症が収束するわけではありません。今後、県としての取組みの強化がポイントになりますので、議会の立場からもしっかりとチェックしていきます。

鹿化川改修について

6月の県議会一般質問で改修の必要性を訴えたところ、県として治水対策に取り組むこととなり、測量や調査が始まりました。今後は具体的な工法の検討に入っていきます。

内容としては、ネックとなっていた近鉄橋梁から曙橋までの未改修区間（450m）について可能な限り河床を掘り下げ、流下能力を向上させるものとなっています。この区間は近鉄とJRの橋梁があり橋台補強が必要で、鉄道事業者等との協議に時間がかかるとともに経費も相当かかるものと思われませんが、完了すれば水位を下げる事ができ、流域の治水安全性が改善されると考えています。



令和3年度当初予算編成に向けて

12月7日に各部局から予算の要求状況の説明がありました。総額で5,802億円で、現時点での歳入見込み5,543億円との差は259億円となっています。

三重とこわか国体・とこわか大会について

現時点では、各競技については当初の予定通り開催される見込みとなっていますが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、両大会の開・閉会式の会場を県総合文化センターに変更することが決定しました。

コロナ禍での初めてとなる両大会であり「新しい生活様式」に基づいた運営とともに、今後のモデルとなることが求められるのではないかと考えています。選手ファーストで安全・安心なものとなるよう議論していきます。

教育関係の請願について討論に立ちました

県独自の学級編成基準の制定とそれを実現するための教職員定数の確保など、教育関係予算の拡充を求める内容の請願3本が所管の常任委員会では反対が多数で不採択となっていました。

そこで本会議で討論に立ち「コロナ禍の中で感染防止のための物理的な距離の確保が求められているとともに、誰も取り残すことなく複雑化・多様化する教育課題に対応し、学びからそれぞれの自己実現へとつなげていくために、今こそ、学級編成基準の引き下げ、それに伴う人材確保にもつながる教職員定数改善計画の策定・実施、教育予算拡充が必要である。」と議員各位に賛同を求め、最終的には賛成多数で採択となりました。

